

1980年9月号

1980年9月5日発行（毎月1回5日発行）

No. 52

あふあふ

発行人 発行所 あふあふ出版部
定価 100円 振替口座 あふあふの会



私は今、自分を愛しはじめています
少々肉付のよすぎるこの身体も
いろんな人の間でおるおるしている私も
天賦かつかいいかげんで
だめな所がいっぱいの私だけれど
なによりやろう
生きようとしている私を
愛しはじめています
毎日毎日が楽しい事ばかりではないけれど
「ア」と大声を出したくなる時もあるけれど
やらなければならぬ事に
追いかける日が多いけれど
私がつくってきたこの生活を
愛しはじめています

イラスト 詩 水田
神山

あんふあんの目

女と子どもはワンセット？



ちょっと古いんですけど、国連婦人の十年世界会議での「託児」についての記事を読みましたか？

ある女性が子連れで会議に参加したところ子どもが途中で泣きだして会議は中断、するはずの仕事もできず、といった状態になってしまったのです。(このあとの、彼女を含め多くの女性たちの行動力はさすが!!) 分科会はすぐさま託児室を求める宣言文作りに変わりそれは百人を超えるサインと共に会議の組織委員会につぎつけられたのです。宣言文にはこうあります。「会議の組織委員会は大きな視野に立って託児施設作りの行動をすぐ起こすべきだ。子連れの男女に対する助けが必要である。この会議に託児施設がないということは、子どもは個人の責任で社会の責任ではないといっていることと同じである」と。そしてこの抗議をうけた組織委員会は早速ひとつの部屋を確保したのであります。これが我が国のことであつたとしたら、こうも早く

対処できたでしょうか？それはともかくとして、ここでひとつ疑問に思うのです。なぜ女の会議にだけ託児が必要なんですか？今まで「国際会議に託児付き」って聞いたことあります。男中心の会議だったおそろしく、というより百パーセント託児はつかなかったでしょう。となると、託児が問題になったのはこの会議が女の会議であつたから、ということになりますね。それでは、女と子どもはワンセットなのですか？私達の身近にも同じようなことがあります。

今、私は数人の仲間と共同保育をしています。そのメンバーの多くが、共同保育に参加して初めて自分ひとりの時間をもったというのです。夫が休みの日はどうしているのでしょうか？ひとりだけならいいが、ふたりともおいていかれるのはゴメンだということです。(自分の子どもなのにです)。そしてこのことが口火となり、したくはない出がけのケンカが始まり、せつなく楽しみにしていた外出もなんだか色あせてしまいます。女と子どもはワンセットなのではないか？

ところで、共同保育も数年たちますと、メンバー間でもヘルパーなどしあえて、少しではあるけれど、自分ひとりの時間が増えてきます。みたい映画もみることができたり、子どもたちにイライラすることもなくシヨッピンもできたり、美容院へもひとりで行けたし……。でも、なんだかものたりないんですね。この気持は一体何ですか？

自分ひとりの時間をもてたこと、これだけでは心の中のもやもやをふきとばせたことにはならなかったんですね。注射と似ています。



その時は効き目があつたように思えても、それ一本で病気がすぐ直るわけではないように、たとえ自分ひとりの時間が増えたとしても、問題自体はちっとも解決されてないのです。では、何が問題なのでしょう？まずひとつにあげられることは、自分が何をしたいのか、これから生きていくうえで何をしたいのか、必要なのかつかめていないかどうかということです。けれど、ここで問題にしたいのは、私達自身があまりにも子どもを自分にひきよせすぎているのではないだろうかということ、いいかえれば、女達自身が「女と子どもはワンセット」ということに対して本当に疑問をいだいているのだろうか、ということなのです。

子どもをうむこと、育てること、そしてあずけるということも、女たちの問題ではあっても女たちだけの問題ではないはず。男も同じテーブルについて、じっくりとこれらの問題に向かいあうことが必要ではないでしょうか。(色川)

グループあれこれ でいんだんどの場合



共同保育したころ、そして今……

小平市

六、七月号の情報誌で、様々なグループや会員の文章を興味深く読みました。特に「ありんこ」の報告は、昨年まで同じ様な問題を抱えていただけた感懐深いものがあります。そして、昨年まで共同保育していた生活や、今の私の暮らしを書いてみようと思ひました。(少しでも参考になればいいのですが)

一九七七年にスタートした共同保育所「でいんだん」は、事実上、一九八〇年四月でピリオドを打った状態になっています。借家を明け渡して以後、各家持ち回りで続けていきましたが、それぞれの立場で新たな方法を模索しています。「でいんだん」は、幼稚園へ上がる年令に達した子を持つ母親達が、三人集まり、知人に呼びかけて始めたも

のです。その三人に共通していたのは、子供達を幼稚園に入れずに、心ゆくまでのんびり遊ばせてやりたい。大人もゆとりたたくつるげる場を作りたい……という心情ではなかったかと思ひます。広い借家を借り、人員募集のビラを配り、語学や数学の教室を開き、保育ローテーションが決められました。親達は週の内二、三日は子供達と遊び、残りの二、三日は仕事等の自由時間を得ていました。家賃を出し合い、保育労働し合ったので、かなりな労働量ではありましたが、かわり合う楽しさは、それを乗り越える力になったと思います。約三年半に渡り続けられました。

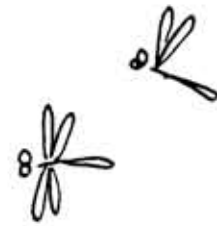
私は、「でいんだん」がスタートしてから半年後に参加しましたが、三年間の生活は、実に密度の濃い生活だったと思います。全ては話し合いで決められました。問題が起る度に、例えばメンバーが増えたり、減ったりした時、自閉的な子の保育園入園をめぐる、家主との二年にわたった裁判等、泊まり込んで話し合いました。結果的には、それぞれの表現力の乏しさもあって、実りある討論は少なかつたのですが、考える必要のある問題をいくつ意識することができました。それらの問題に向かうことで、私の生活や、考え方が大きく変わってきたので、整理してみようと思ひます。一、子を幼稚園に入れないうこと。二、異年令の集団。三、地域とかかわり。四、家事、育児の共同化。五、子供と大人のかかわり。共に育つこと……等です。

一、については、何人かの人が幼稚園を拒否していましたが、私は入れても良い様に考えていました。同年令の子ども達が、互いに

刺激し合ったり、親、兄弟と離れる体験も良いと思ひていたからです。けれど、娘が三才を過ぎて思うことは、今の世の中、刺激が多すぎるのではないかと、という事でした。テレビでは楽しい劇や、美しい音楽、アニメ、文字や数を、あの手の手で教える番組が放送され、図書館には本がたくさん。商店には、食べ物やおもちゃがたくさんあり、道は危険がいっぱい。知識や情報が過多になるのも無理からぬことです。もとのんびり、もとおおらかに……と思ひます。幸いにして我が家のまわりには遊びざかりの子供が多勢いて、そろそろと移動して遊んでいます。小学生のいないお昼時には、友達と一緒に食事する事もあり、ごく自然にやっています。カリキュラムにのって忙しく遊ぶよりも、このまま気ままに遊ばせてやりたいと思う様になりました。

同じ年令の子が毎日遊んでいると、ライバル意識が強くハリ合ったり、又仲良く一日中遊んだり。そこへ異なる年令の子が来ると少し様子が変わります。八ヶ月になる長男を見ていると、子どもや大人に囲まれて遊ぶ事が、何より楽しい様です。近所の子ども達にバギーを押してもらい散歩へ。又家の中で先輩達をながめて時をすごします。大きい子の小さな弱い子への思いやり。それはゆとりある心を育てます。また小さい子が大きい子について行く事は、知らずに自分の能力の限界に挑戦する心を育てるのではないのでしょうか。異年令の友達を持つ大切さを、核家族の一員である私は痛感しています。(三、以降は次回に)

アンケートから その2



六月号に同封しましたアンケート、先月号では中間報告でしたが、今回は一応最終的なまとめです。もちろんこの欄には載らなくても、いま書いて明日送る、あなたの意見も今後のあんふふんてを作っていくますので、一人でも多く送り返して下さいね。

さて、スタッフとして一番気になるのは、値上げの件と来期に各々が何をやりたいか、来期の会に何を期待しているかという点ですが、値上げの件に対しては、ほとんどの人が「値上げもやむを得ない」という意見です。でもこれは、返送して来てくれる熱心(?)な一割ほどの会員の意見です。今読んでいるあなたはどうか。

先日スタッフ皆で話したのですが、値上げになった場合一番心配なのは、地方の人が離れて行くのではないかと、高すぎると感じるのではないかとのことです。

東京のように人口が密集しているところでは、近くにあんふふんて会員がいて子供を預

け合うとか、事務局に遊びに来るということも可能で、子供を預け合うことから来る保険の有効性などもあると思うのですが、一県に会員一人などという人は、どう感じるのでしょうか、とても心配です。幸い今回のアンケートでは、地方の人も値上げに対しては好意的なのですが、今スタッフ全員で、地方の人にいかに関わってもらおうか、例えば地方スタッフを置くとか、スタッフが会いに行つてインタビュー記事を書けるとか、いろいろ考えています。もちろん詩・イラスト・雑文なんでも、投稿はいつでも大歓迎です。私も福井県出身なので、中央に対するその辺のやり切れなさ、もどかしさみたいなものはよくわかるつもりでいます。地方の強みをいかした「あんふふんてする」を考えたいですね。

○収支がはつきりしている限りは、赤字を出すより上げてゆきましょう。

○運営費は会員が当然負担すべきものです。会費が値上がりしたことやめようなどと考えることはありません。ただ出せる人と出せない人は、やはりいるでしょう。どこかの組織でもカンパなどという制度がありま

すから、それぞれ出せる人には、そういった「別口」で集めることはいいかでしょう。

○値上げしてもよい。四百円位まで。

○足りない分、他の収入を考へること。Tシャツもそうだし、婦人問題保育などの情報を有料で。

○いつも出て、何度説明されてもわからないのは、第三種郵便物の認可をなぜとらないのか。

○半年間二千円位ならよいと思う。

○三百円で赤字になるのなら仕方ないと思う。まったくやめようとは思いません。

○会計報告はしているのですか。

○郵便料金が上がるのならやむを得ない。

○月三百円でよく頑張った。月五千円の私の小遣いの中の三百円は少ないような多いような、欲しい本がいっぱいあって、もっとお金があったらなーと思う毎日ですが、値上げして今まで以上にすばらしいあんふふんてを送って下さい。

○利潤を追求しないことなど百も承知です。値上げしなければならぬ状況なら仕方ないと思います。グループ活動しているものにとつては保険料も含まれるので。

◆会計報告は毎年十月に誌上に載せています。いつもは何気なく見る人でも今年はしっかり読んで下さい。今月号の秋元さんの文章を読んでいると、会費以外の収入という点では、いろいろ考えてはいるのですが、たとえばTシャツ、コンサートなどでも、その都度莫大な力と時間がかかるのです。それでしょっちゅうとか定期的にとかは、今のところ無理です。もちろん協力してくれる人が増えれば可能ですが。あとは、この五年間の総決算として出版の話がありますが、これもそんなに急に出来るものでもなし、第一そんなににお金になると思われません。それにしても、昨夜の残りのカレーをぶっかけて弁当を食べながら、子供に乳をやりつつスタッフ会議やっているのに、なんで赤字なんかね。情報誌に広告を

とかいう話もあるんだけど、疑問だしね。会費滞納しないですね。

情報誌「あんふふんて」の中で人気がある(あった)のは、表紙の詩とイラスト。

○情報誌の中に入りやすいとのこと。「あんふふんて」からあんふふんてへ「あんふふんて」の目も。

○スタッフの人達の努力、本音が出ていておもしろい。

○女の体についての情報。

○避妊について載せてほしい。

○森 さんの「体のおし+べり」の避妊についての話。たとえばその中でコンドームの時などは、技術でなく、人間がはいっている。情報過多のこの時代に意外にないものです。是非続けてほしい。またこれを糸口にいる人にも書いてほしい。子供を一人生むごとに、その重大さや大変さなどをひしひしと感じ、せつなく産むのならよい子をよいお産をしてほしいとこれからの人に願うし、自分が知っていることは伝えたい。また、気まぐれやついでなどに産むものでないと思うから、避妊の問題もつと若い人にしっかりと伝えたい。

◆森 さんの「体のおし+べり」は一応終りました。「体」をテーマにしたものは、今後も続ける予定です。

○安全な食べ物、健康な子供、大らかな人間関係、それぞれが別の問題ではなく、同じ根をもつ様に見えてきました。

◆グループ作りにも苦労している人も多く、それぞれが子持ちというだけで(子のない)グ

ループからし+断され、せめてもの思い、必要性で必死に子持ち同志の連帯を求めても、まったく知らない同志が自分も子持ちの上へ、他の子持ちの苦しさまで背負えるかは、まったくその人の力量にかかっているような息苦しさを感じます。

○現在グループ作りは四苦八苦しているの、その体験談などは興味深い。

○先輩達の今、そして歴史(あんふふんての、もしくは、その周辺にいた方たちの)自分達の将来の姿が知りたい。

○グループ、個人の活動の状況を知りたい。

○子供に手のかからなくなった人達の現在。

○具体的な共同保育の様子。いろいろな年齢の子供達が楽しく遊んだのはどういうことだったのか、何が子供にうけたのかetc。

○親の立場からの保育の情報が、子供達はどういう風に過ごしたかに興味があります。

○新しく共同保育を行なうにあたっての過程を記した欄がほしい。

○「グループ作りあれこれ」は、いろんなグループの過去、現在を知ることが出来ておもしろかった。

◆グループなどあんふふんて内の情報とは別に他の催し、たとえば

○託児付きの講演会、映画会、スポーツ教室等の情報が欲しい。

○もっと情報を。

○という人のためにも、情報欄の拡大も話に上がっています。皆さん、スタッフにもっと情報を。

○あんふふんて以外のグループでも女達がい

ろいろな動きをしている、そういうグループを徹底取材してレポート形式で載せてほしい。

◆これも検討中です。

○私個人としては、今回のアンケート一枚一枚を読みながら、胸躍る又は胸塞まるものがあり、全体としてはとてもとらえられないのだけれど、一人一人達って、

○個人個人のあんふふんてについて具体的に知りたい、どんなことを考えながら暮らしているのか。

○保育だけではなく生きるという事に対して戦っている人、悩んでいる人の声など載せてほしい。

○主婦という立場の女が、夫とどういう関係を持っているか、多くの人の場合を知りたい。

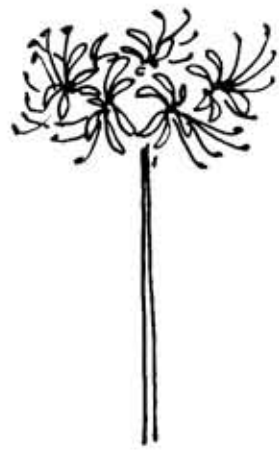
○会員の紹介を。

○何とか個々の生活のやりくりの仕方についてみたいと思っています。

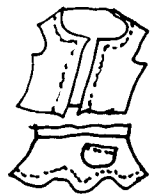
○あなたの所にインタビューに行くかもしれませんが、その時はよろしくね。

○これで少しは、この間のアンケートの報告と答えにはなりませんでしたでしょうか？

(井上)



これからの あんふぁんて



「あんふぁんて」の活動も来期でもう六年目になるですね。そこで今年は今までと少し違った目で来期案を考えてみたいのです。発足当初の一期目を除き、二期目以降は何らかのテーマを掲げて一年毎の見通しの元に活動してきましたが、そろそろ長期的な展望を持った計画が必要な時期にさしかかっています。預け合い、共同保育から出発した「あんふぁんて」も発足時から比べると会員各自が「あんふぁんてをする」という基本的精神は守りながらも徐々に変遷してきています。六年目という節目を迎えて、「あんふぁんて」がこれから先どのような活動をしていくのか、現在ほどの程度までなしているのか見きわめるために、まともを出すことがどうしても必要だと思っています。

「まとも」の出し方として、いくつかの項目を上げてみました。その他に何か良いやり方があったら教えて下さい。

私達は今まで、とにかく預け合ってみようと集まってみようと、やってみようという事であまり深く考えることはしないで、バイタリティーだけでやってきたところが、たくさんあると思うのです。スタッフにしても、グループ活動だけでは、飽き足らない人や、とにかく動きたい人が集まって、各自「あんふぁんて」全体を見ているようでも、実は自分のやりたいことをやる場として、スタッフ活動してきた面があるように思います。それが、「あんふぁんて」が入りやすいという理由にもなっているのではないのでしょうか。

よくアンケートなどにも、「あんふぁんてとは何かははっきりしない」と書かれています。又いざ「あんふぁんて」のことを説明しようとする、どう説明していいのかわからないという声を聞きます。もうそろそろ私達は何をめざしてグループ活動したり、対外的な活動をするのかを、はっきりさせてもいい頃ではないでしょうか。確かに一つの方向性を持つという事は、ある程度入りにくくなったり、やめていく人がいたりして、いいことばかりではないでしょうが、「あんふぁんて」の方向性が分らなくてやめていく人がいるのも事実なのです。来期は、五年間のまともを出しながら、その中から今後の方向性を見出すために、全力を傾けるようにしたいのです。そのため来期一年間は、マスコミの取材によって新会員を増やすことは、極力避けていきたいと考えています。新聞、雑誌、テレビ等を見て会員になった人はたくさんいるとは思いますが、こちらの真意がきちんと伝わらなくて、安易に書かれることがよくあるのです。

① 共同保育、ヘルパー制(預け合い)の整理。
(一九七七年に行ったアンケートのまとめ及び新しいアンケートの作成、まとも)

発足時は、「預ける」ということ自体が、まだまだ一般的でなかったけれど、今ではベビーホテルがあちこちに出て、「預ける」だけなら、何も「あんふぁんて」でなくてもいいわけですね。共同保育にしても、乳幼児からの集団保育という面からだけ捉えれば、幼児教室などが林立する時代になって、これ又「あんふぁんて」である必要がない。じゃあ一体「あんふぁんて」の預け合いとベビーホテルはどこが違うのか。共同保育と幼児教室は？ 私達は何故共同保育をやめるのか、共同保育でなくては行けないのか、「あんふぁんて」なりの預け合い論、共同保育論を作っていく上での基本となるものです。

② グループ作り、運営についての整理。

五年間に、できては消えていったグループは、とてもたくさんあって事務局、スタッフでもはつきり把握できていない状態です。これをはつきり把握すると共に、ひとつのグループのうまくいった点、失敗した点をしっかりと他のグループに伝え、積み重ねて少しでも発展できるようにまとも。

③ 情報誌のまともと内容的な流れのまとも。

今年の九月で五十二号を数える情報誌を見直して、「あんふぁんて」がどのように変わってきたかを、捉え直していく。この中からこれからの「あんふぁんて」の方向性が探れたらと思います。新しく入ってきた会員に、

方向性を出そうとしている大事な時に、マスコミ対策に精力を向けることはできないので、会員、グループのロコミによって増やしていきたいと思っています。

方向性を出すと言っても、「あんふぁんて」の特徴であり、いい所でもある、入りやすさは大事にしたいので、この点をどのように発展させるかは、来期以降の課題にしたいと思っています。どのような方向性を出していくにしても、五年間の試行錯誤の中からつかんだものになるでしょう。

この案について異論があれば、是非、九月二十八日の交流会に来て下さい。賛成の方ももちろんです。グループ内でも討論して最低一名は来てほしいのです。来られない方は、すぐにも電話なり手紙で意見を聞かせて下さい。

△郵便料金値上げにともなう会費の値上げについて▽

いろんな物が値上がりしていく時に、会費まで上げたくなないので、四年間三百円で頑張ってきた、この上郵便料金を上げられてはもうお手上げなのです。事務局の人員費も四万円と、それだけでなく低い女の賃金相場も半分程度しか出せていません。スタッフも交通費以外は相変わらず手弁当です。そしてこの交通費も、年々上がっているのです。

第三種郵便物の指定を受けようという声もあるのですが、第三種の規定として、一般公開の原則というのがあります。あんふぁんての情報誌は、あくまでも会員相互の情報交

五年間の動きを伝えるものとして、情報誌のダイジェスト版を作る。これはロコミで会員を広げる時にも役立つでしょう。

④ イベント、対外的活動について
グループ活動以外の、ミズスクール、交流会、子連れパーティー、子連れ映画会、バザーなどの各種イベントの流れについてと、国立婦人教育会館に対する要望書、「新幹線にベビーカーを乗る」の署名集め及び要望書の提出のまともを出す。

⑤ 組織、運営について

「あんふぁんて」の場合、組織という言葉が適切かどうか分らないのですが、他の組織と言われている所と比べると大巾に違うようです。その違いと、いい面、悪い面を出して、「あんふぁんて」らしい組織のあり方、運営の仕方をまとも。

⑥ 「あんふぁんて」と私。

スタッフ、会員各自が変わっていった部分に、どのように「あんふぁんて」が関わってきたか、やめていった人達の追跡調査も含めてまとも。

以上の六項目に整理してみました。来期だけで全部やり切ることは、今のスタッフの力量(グループ活動している人、仕事を抱えている人、乳児を抱えている人等)で、皆、ギリギリで動いている一ではできないので、何から先にやっていくかは、交流会等で意見を聞いてから決めていきたいと思っています。

換を目的としているので、この原則にあてはまりそうにありません。半年分の情報誌を提出することになっているので、その期間の誌面を意図的に作り変えることも可能なのですが、これをやるには非常な手間がかかるので、現在のスタッフの力量では、ちょっと無理に思われます。確かに年間二、三十万円浮くとなると魅力的なのですが……。

そこでスタッフとしては、第三種はとれない場合を想定して考えていくことにしました。値上げするからには、事務局の人員費のきちんとした保障と、スタッフが取材で動いた場合の交通費なども支払って、誌面を充実させていきたいと思っています。具体的なお金の使い方は来月号の予算案で明示したいと思っています。値上げ巾としては、百円位を考えています。アンケートの返却分の範囲では、値上げに好意的なのですが、他の人達はどう思っているのでしょうか。値上げしたらやめるからなんて言わないで、意見を聞かせて下さい。(秋元)

交流会のお知らせ

これからの「あんふぁんて」を考えるための交流会を開きます。大切な話し合いですから、各グループから、必ず一人は参加するようにして下さいね。個人の参加も、もちろん大歓迎です。

9月28日(日)12時 / 事務局にて
問い合わせ 事務局(329) 6437

Tシャツ報告



Tシャツを購入下さった方には、葉書きが届いている筈ですが、結論から先に申し上げますと、今年のTシャツは不良品であった為、業者に返品する事になりました。今回の企画に苦心のあった方は、今迄の情報誌に載った経過報告を読んでもらっておわかりかと思いますが、胸の文字部分がフロッキープリントになっていて、これはどういう状態のものかという点、布地の表面は起毛状態でその裏面に接着加工が施されていて、これを文字の形に切り抜いて、熱により接着させたものなのです。このプリント文字が切れたり、はがれたりするものが出て来たのです。

これをもって都の消費者センターに相談に行ったら、フロッキープリントに対する苦情は多いそうで、まだこのTシャツの場合など良いほうだそうです。中には全面に加工されたものもあり、数回のクリーニングには耐えられても最終的には接着部分がはがれてしまふとかで、消費者の知らないということの良いこととして作られている製品も多いことを聞きました。

もちろん、現在着ていてプリントの状態も良く、なんともないものもあるのです。購入者に対するアンケート調査をしましたところやはりせっかく買ったのだから大切に着たいので手洗いをしているという人も多く、従ってプリントの状態も良いの方に○がついているといったものでした。それで業者と話し合

いをした結果、不良品及び残品を返品するという事になったのです。すでに購入された方については、返品を受け付ける旨の葉書きを出して、今はその後の処理に一同追われていく状態です。

このような結果になり本当に残念ですが、我々の取り組み方の甘かった事も多く有り、このことをこれからグループのあり方への反省と教訓としたいと考えております。購入して頂いた方、事務局のスタッフの方々には大変な御迷惑をおかけし申し訳なく思っております。なお品物を返品された方につきましては後日御連絡したいと思っております。この号の誌面を借りまして報告とお詫びをしたいと思います。

(武蔵野チロリン村)



△スタッフから▽

今回のTシャツづくりについて、スタッフとの関わり方が不明確で、流れがわかりにくかったのではないかと反省の声がありました。ここでもう一度、点検し、今度試みる時には、もっといい形で取り組みたいと思います。

最初の呼びかけは、スタッフからで、Tシャツ資金が集まったらスタートしようというものでした。これは単に、スタッフからの思いつきの提案ではなく、会員の少なからずの人が賛同していることを確認してからという目的と、Tシャツづくりの独立採算制ということからです。ところが残念なことにあまり集まらず、ではあまりみんなノッテないんだ

と中止することになりました。

ちょうどその時、武蔵野チロリン村では、あんふんてのスタッフ実施という形ではなくても、グループとしてTシャツづくりをやりたいと意欲がもたらがっていったのです。さらに、業者から注文の返事が急がされたこともあって、デザイン・サイズ・枚数・原価をあたわだしく決め、発注してしまっていました。そうすると六月十日には出来上るとのことでした。そして、六月号でのアピール文になるわけです。

つまり、スタッフ実施という形ではなく、グループ実施となったわけです。例えば、各地のグループが映画会などをやるのと同じなだけけれども、もっと地域やテーマを広げた場合、グループとスタッフの組み合わせの問題があります。今回その組み合わせをよく話し合わないままスタートしてしまったことが、スタッフとしては一番のミスであったと反省しています。例えば今回のようなグループ主導、スタッフ協力という場合、グループの自主的な気持ちや動きを第一に考えることは、あんふんての基本ですから、あくまでグループがやりうることを前提に、スタッフでなければ絶対できないことだけをホンのお手伝い程度でやることだと思っています。

いずれにしても、あるグループがやったことをあんふんての血となり肉としていくためにも、いい結果も、悪い結果も、あんふんて全体でフォローしていくことだと思えます。もちろん、チロリン村からの具体的な提案があつてからのことになるのは当然ですが、その時は、又、よろしく。

(古知)

映画コーナー

「ボーグ・ワイル自身を語る」を観て

狛江市

「私のなかの本を通じてしか知らないボーグ・ワイルに映像を通してでも動く彼女、語る彼女を加えることはこれからまた新たに本を読む場合、何かのヒントにきつとなるだろう。最初の画面はどんなふうになるのだろうか。」私は「シモーヌ・ド・ボーグ・ワイル偉大な知識人・女・女・女」と胸のうちで繰り返しながらアテネ・フランセへのなつかしい坂道をのぼっていた。駅へ向う学生の群れと子供の手を引いた私がすれ違ふとき、初夏の陽ざしが投げかけた影は過ぎ去った十年の月日を鮮やかに写し出すのだった。風のよう

であった。

映画が始まって、ボーグ・ワイルの声が聞こえた時、私は目を閉じて彼女の早口なフランス語を一言洩らさず脳裏に刻もうとした。「ああ、もっとちゃんと勉強しておくのだった。こんなにも私を震わす魅惑の言葉よ。しかし、おまえは生かじりのままで投げ出したではないか。自分を叱りつけながら目を開けると黄色いターバンをして真紅に爪を染めた彼女は笑っていた。

内側は大変かわった。私の影の横を歩く小さな子供のシルエット、木洩れ陽に重なるそのゆらめきは、結婚を後悔しはじめていた私の心のたゆまいに似ていた。十年前十七だった私の行く手には傲慢な青春だけを信じて疑わない「可能性」があった。感受性がひどく敏感な鼻の強い娘は才気と感性だけで創造の扉を開いたつもりになっていたのだ。だがそのふたつだけで創造主となれるのは、ただただ天才の特権なのである。娘が持ち合わせている才気や感性は決してダイヤモンドではなかった。そして凡人の持つ「可能性」とは、地道な努力を積んではじめて開花するものだと知ったのは、青春の様々な恩恵を失った時

ボーグ・ワイルの為した仕事の先駆的重要性とは別に、最も私自身に畏怖の念を起こさせるのは彼女が自分の道を寄り道することなく非常に意図的に突き進んできたという点である。事実、映画の中で何度も彼女は「退屈するのは大嫌いだ」と云っている。途切れることのない向上心と好奇心。それは驚嘆に値するではないか。彼女は幾度恋をしても恋のなかに埋没しないのである。愛する男と意気投合をむさばりはしないのである。冷めた頭脳は甘美な愛のなかにも目覚めているものらしい。彼女の貪婪な知識欲はいつも愛欲に勝っていたのだ。そして、その知識欲に支えられた深い教養と長年培ってきた哲学的洞察があればこそ、女の解放を叫びながら決して偏狭なフェミニズムに陥ることなく人間の解放の中にそれを位置づけることができたのだらう。この映画の中でボーグ・ワイルの意志を強く感じた箇所がある。彼女がサルトルの子を身ごもりながら中絶したことについて語っているところである。「私は決して母性を否定しませんが、でも現在私が子供を持つと自由は必ず束縛されます。だから私は産まなかつた。」

た。もし彼女が子供を産んでも保育所に預けらるなりすれば十分育てられたらうに、その方法を選ばなかったのは、保育所を離れた時、女の側にかかる負担はやはり男よりも大きいと判断したからなのだろう。

彼女が妹エレノと話す時に見せる幸せそうな表情と、エレノが「あなたはとても良い姉さんだった。読み方も教えてくれたし、いつも励ましてくれたわ。」などと云うところから想像するとボーグ・ワイルは面倒見の良い家庭的な優しい女性である。又、彼女の年下の愛人の語りくちや彼を見つめる彼女のまなづしからもボーグ・ワイルの豊かな母性を感じることが出来る。そのボーグ・ワイルが自分の主張のために自らの母性を断ち切ったのである。それは「子供ができたら仕事がいづらくなるし育児は厄介だから」といった利己的な理由からではないはずだ。彼女の能力を持ってこの双方を完璧に近く両立させることは極めて明白であるから。ボーグ・ワイルは女が未だに男の属性である社会において屈辱のうちに墮胎をしたのである。著名な知識人としての影響力も考慮して女の自由と平等を身をもって主張したといえるだらう。一時間五十分、生き生きとした映像のうちに語られたボーグ・ワイルの筋の通った強靱な生き方は、彼女の半分も生きていない私に実に大いなる反省と光明を与えてくれた。



あんふあんて
から
あんふあんてへ



ある集まり——冷たい夏の熱い話

夏休みも終わろうとしている八月末の土曜日、近所の公民館で「戦争を語る会」(子連れ可)があるというので、二人の息子を連れて出かけました。

四十才、五十才の女性がくるという事、スイートンを作って食べる事や、未知の人(戦争体験者)への興味、そして、この夏休みに起きた一連の「戦争」への傾斜など、社会の動きに嫌なことが度重なったので、そのうぶな心ななもので出かけて行きました。

話し合いは三時間経ちました。まず各々の親から聞いた戦争について話しました。一番若い母親は二十五才位、そして三十才前後の人が多く、実際に戦争を体験した四十、五十才の人は四、五人でした。

昭和二十年生まれ、三十五才という私も、どちらかといえば、戦争を語り伝える側に近づきつつあるという事を感じながら、親から聞いた話をしました。そして、私が四十代以上の女性の戦争体験に目をみはったのと同じように、戦争のおおりに受けた私の幼児体験に若い人がじっと聞き入っていました。

それでも結局、私より年下の女性達からは「フニャー」とした手応えしなく、四十

才以上の人々の話はキチッと手応えがありました。戦争体験—反戦思想—もう二度と戦争は嫌だし、その為には何かしなくてはダメ」という筋の通った話があり、自分の体験を若い人に伝えようという心根の中に「強い人のやさしさ」みたいなものを感じました。

また、話の中で私が一番感心したのは、中学生位から太平洋戦争が始まって、軍用品を作る工場で働かされた青春を送った女性の父親の話でした。その父親は、正しい知識の為か「こんなバカらしい戦争というものは、続くはずがない。お前達、戦地にいても前線に出て人殺しをするな。何としてでも生き帰れ」と自分の息子の出征の時に言ったそうです。当時、そのような事を、公けに話したら、特高警察とか、国防婦人会とかにつかまってブタ箱入りだったのです。危険思想とかいわれて白眼視(近所の人とかに)された世の中だったのです。

私が強く思うのは、こんな父親もいたという事、そして周りがどんな悪い状況でも、信念を持って何かを言いたいという事です。

残念ながら、私の周りにはそういう人はいなく、戦争をいいと思っていたのか、という問いにも、キチンとした答えは返って来ませんでした。圧倒的多数の日本人は被害者と思っただから、これもあたりまえかもしれませんが、その他の理由としては、

①一つには、やはり「教育」——正義の戦争国を守る為と信じていた。

②そして「知識」のなさ——戦争のしくみ、国の動きとか、ホントウの事を見透す眼がな

かった。

③そして「自分の生活」——追われ、逃げたり食べたりするのに必死で、やみくもだった。などがあげられるのではないのでしょうか。ふり返ってみると、今の世の中、私の親達の誤まりを又やっていないだろうか。私は子供には、「お母さん、なぜ戦争は起こるの?戦争はいいことなの?なぜ反対しなかったの?」とこれだけはいわせまいと思っている。だから、原潜が事故を起こしたら「そらみろ、バカめ!」とか、国を守る為に防衛費を増やそうとか言われたら、「冗談やめてくれ、税金は払わないよ」と即時的対応を子供の前で演じてみせている。

戦争というものはモノを破壊する力で、我々あんふあんて(何かをつくりだす)とは逆方向に進んでいく力です。あんふあんての会員のみなさんは、この問題をどのように考えていますか。私は今、「反戦・あんふあんての会」というのをやったら、どんな反応があるかな?と考えているところです。……

(埼玉県和光市)

ミニコミコーナー

「にらめっこしましよ あっぶっぶ」

かっぱのいえ 1974.7.8
共同保育をやっているグループには、必読書です。定価八百円、送料は一部百六十円、三部で二百円です。申込先 武蔵野市吉祥寺本町2の34の12 かっぱの家保育所
TEL 0422(22)7991

情報コーナー

★預かります

子連れで外出したくない時だってありますよね。そんな時は連絡ください。責任を持って預かります。会員の方なら無料で。但し0才/3才まで。0才児は特に大歓迎です。

★仲間を求めています

グループ保育で自分の時間をつくりませんか。当方には3才9ヶ月の女児と1才4ヶ月の男児がいます。なくべく近くの方と。

★共同保育の仲間をさがしています

当方3才半の男児と7ヶ月の女児の母親。子どもと共に私達も虚心にかえて一つ一つの事を見つめていければ、意外に世の中、楽しいことに満ちているかも……。

★ゆずって

2、3才用の女児服。6、7才用の男児服。こちらから取りに伺います。 鈴木

★ティーチ・インのお知らせ

「性別役割をなくすには?」がテーマです。1LO 助告つき条約案を素材とします。日時・9月23日(火)午後2時/5時 場所・新井地域センター(中野駅北口10分)

主催・仮称「育時連」

連絡先・

★上映運動に協力してください

長編記録映画「たとえは障害児教育」

(16mmカラー)——豊中の教師と子どもたち——

「地域・校区で「障害」児に教育の保障を」という実践が大阪府下各地ですすめられています。その中から、確実に「障害」児と「健

常」児が共に生き、育ち・学びあう。それがあたりまえの生活であるという認識が広がってきています。このフィルムは映像の中でそれを証明しています。(借料3/5万)

障害者に対する一般の認識は、まだまだ偏見があります。一つには健康者の目にふれなかつたため、お互いの関係が慣れないというこ

とがあるでしょう。一人でも多くの人に観てもらいたいと思います。上映可能な場所の紹介など、上映運動に是非とも協力して下さい。詳細は松井 まで。

★いっしょに考えていきませんか

湘南の会員を中心に「子供社会を考える会」を発足して約1年。これからは教育史を中心に学び考え合っていく予定です。並行して、教育システムの中で、子供の個性を無視した画一的または管理的な事を具体的に集め、資料集を作る計画もあります。是非参加してください。

場所・横浜市婦人会館(京浜急行南太田駅下車3分)

日時・月1回9時30分/12時(託児施設もあり)

連絡先・

お知らせ

★あんふあんて手づくり展

開催予定日・81年2月20日/2月26日

場所・スペース「アウラ」(新宿御園前2分)

出品申込/切・12月20日

搬入/切・2月15日

参加者には12月20日以降、売値、値札のつけ方、送りの方法など、詳細を書いて送ります。

全体の経費は、さほどかららないので赤字にはならないと思いますが、最悪の場合(期間中の利益から経費が出せない場合)は、作品の送り、返品送料を各自で負担するように

なります。利益が上った場合は、各自の売上げに応じ送金し、その中から希望のパーセン

トであんふあんてへカンパします。

楽しい作品、売れそうな作品を考えてください。楽しみにしています。参加希望の方は

できるだけ早めに連絡下さい。 幾代

★0・1才児ひなたぼっこ会

9月16日(火)、10月7日(火)、21日(火)

10時/3時 大山宅 会費千円

問い合わせ・神田



事務局から

さつきが丘グループは今年で2年になります。3ヶ月前より問題が続出し、共同保育を一時中止していましたが、一旦解散することになりました。

事務局担当が変わりました。今まで管理人のオバサンだった大山が事務員も兼ねます。古知さん、長い間ご苦勞様、今までやれなかった事を十分あんふぁんてしてちょうだいと言いたけれど、まだまだ不安。しばらくは面倒みてね。皆様もよろしく。

さて新米の事務員から早速お願いを一つ。住所変更、退会の旨、電話かハガキで一言、連絡して下さい。特に退会には会費が切れたら自動的に、とは処理していませんから。すぐ郵便局へ行けないとか、経済的事情を考慮して本人から連絡があるまでは、と思っっているのです。この事は趣意書にもありますけど、もう一度お願いします。

編集スケジュールメモ

9月19日(金)	九月号発送・十月号企画
9月28日(木)	来期案決定交流会
10月2日(日)	十月号投稿ノ切
10月5日(日)	十月号編集会議
10月12日(日)	十一月号企画会議
10月17日(金)	十月号発送
10月24日(金)	十一月号投稿ノ切
10月26日(日)	十一月号編集会議
11月7日(金)	十一月号発送

スタッフから

★あんふぁんてに参加して三年。親子共あんふぁんて卒業かといわれる年になりました。でも女の主婦的状況は全然変わっていないことを思えば卒業というよりはあり得ないのではありません。スタッフとはいえ、つぎは長時間しか参加できないのがよろしく。(風戸)

★プールに通うと言ったけど、寒くてほとんどお流れ。でも、そのくらいではメゲないのです。9月からは又、バスケットボール。練馬総合体育館で、毎週木曜の午後か夜間、やるつもり。同志はいないかな。(古知)

★現在の心境、私がスタッフ、えらい事になったわい、でも自分で動かなくちゃ何も始まらないし、私も女、ここで引込むわけにもいかにし、と言うわけで登場しました。とにかく長い目で見て下さい。(北山)

★あんふぁんての先行きが少しでもつかめるか、ということもあって「ホーキ星」のことに関わってしまったのが混乱のもと。かえってあんふぁんてから遠くなってしまう。一年半ぶりぐらいでスタッフに復帰します。他の場や仕事の状況から考えて、やはり私にとっては、ここがいちばん可能性に満ちている、いや、可能性に溢れさせたい場です。(幾代)

★五ヶ月目と一才十一ヶ月と四才一ヶ月の子供を抱えて、毎日ウロウロと忙がしがっているのはすごく疲れたりするので、夜、ビールがおいしいのと、ガッツと寝れるのがすごくいいのです。(井上)

★入会申し込みは切手三百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛先は

★参加費は一ヶ月三百円。六ヶ月以上まとめで郵便局で。払込先は表紙に。

★事務局の電話受付は原則として月ノ金の一ノ三時ですので御協力を。現在の事務局の電話番号は